

第4部 行動提案

コミュニティづくりの課題や地域の課題の解決のためには、それぞれの地域での実情に応じた様々な取り組みが必要と考えます。このため、ここに掲載した行動提案の内容は、プログラムづくりの議論の中ででてきた一例を提示しています。

点線で囲んだ部分 [] は、行動提案の内容を分かりやすくするために、平成13年度から平成17年度（2001～2005年度）の間に、県民行動プログラム（第1期）の行動提案に沿って、神戸地域ビジョン委員会や地域などで取り組まれた実践活動の一部を掲示しています。

第1章 コミュニティづくりの課題への取り組み

I 人と人が結び合う温かいコミュニティをつくりましょう

くらしを守り、発展させるためには、人と人との助け合い、支え合いがスタートとなります。それには、同じ地域でくらしを共にする人々、あるいは、同じ課題をもって、行動を起こそうとしている人々が集まり、それぞれの課題解決に向けて力を合わせることから始まります。

コミュニティには、同じ地域に暮らす住民が、その縁でつながり、それを支える「地縁型団体」と、居住する場所が違っても共通する背景や関心をもとにつくられ、それを支える「テーマ型団体」とがあります。

コミュニティづくりの課題解決のためには、それぞれの実情に応じた様々な取り組みが必要と考えます。

1 地域とくらしの魅力を高めましょう

私たちが暮らす地域の課題解決には、自治会・婦人会などの地縁型団体や、「福祉」「環境」などをテーマに掲げるボランティアグループ・NPOなどの、テーマ型団体がそれぞれに、あるいは協働して取り組んでいます。しかし、一つの団体が全部を担えるものでもありません。また、サラリーマンなど勤務の都合で地域とのかかわりが薄くならざるを得ない住民が多いという現実もあります。

地域の人々が集い、喜びと感動が共有できる「楽しいまち」をめざし、みんなで目標を定め、団体・グループが連携し、ひとりでも多くの力を集めて、よりよい地域とくらしづくりに取り組みしましょう。

○共通の目標・テーマをみんなで共有し、認識しましょう

- ・まちづくりやコミュニティ活動について、具体的な目標・目的を明確にしましょう。

◇地域のことや社会全般について住民が誰でも参加して話し合う「地域井戸端会議」を実施（ビジョン委員会活動）

○多くの人がかかわることができる仕組みをつくりましょう

- ・ごく近隣の「まつり」、地蔵盆など、地域で共に暮らしていることが実感できるイベントを継続的に開催し、多世代間の交流を図るとともに、回を重ねるごとに参加者が増えるように、地域でイベントを支える仕組みをつくりましょう。また、こうした地域の情報が地域の人に行き渡るように工夫しましょう。
- ・地域の企業で働いている人や、地域の大学・専門学校で学ぶ学生を含め、若い人たちが地域に愛着を持てるよう、地域の活動への参画を促す仕掛けづくりや学びの場を提供しましょう。
- ・高齢者の知恵・技能と若者の力をあわせて、地域の活性化に向けて活動しましょう。このため、地域内の各種の専門家、特技を持つ人、語り部、遊びの伝承者(手玉、おはじき、あやとり、百人一首)を発掘し、登録しましょう。このことが、技能の伝承にもなります。
- ・地域の人や、身近なところで、また、様々なテーマで集まる機会や場所をつくりましょう。例えば、マンションと地域の結びつきや住民同士の交流を深めましょう。



六甲アイランド CITY 自治会
サマーイブニングカーニバル

- ◇子供と大人が花や緑を育て景観向上と世代間交流を図る「地域緑化によるコミュニティづくり」を実施
- ◇大人が子供たちに昔遊びを教え、コミュニケーションを図る「玉一あそび塾」を実施
- ◇学生TMO「甲南地域経営研究所」が甲南本通商店街でイベントを実施

○担い手の連携を進めましょう

- ・自治会、婦人会、PTA、民生委員、NPO、学校、企業、行政など、地縁型団体・テーマ型団体を問わず、地域づくりの担い手が一堂に会し、幅広い交流・連携を行い、自由に話し合う「円卓会議」を開催しましょう。

- ◇地元地縁団体代表有志や地元住民有志が参加して共通の課題を自由に話し合う「地域円卓会議」を開催(H14～16、西区樫野台6丁目)(ビジョン委員会活動)
- ◇「六甲アイランド CITY 自治会」が、まちかど会議を開催(H16)

○地域の資源を発掘し、活用しましょう

- ・地域を歩き、地域の歴史・文化・環境などを発掘し、そうした資源に関するマップをつくとともに、そうした情報が地域の人に行き渡るようにしましょう。
- ・地域内の各種の専門家、特技を持つ人を発掘して、地域で活躍してもらいましょう。
- ・公園、公民館などの既存施設を使いやすいように工夫しましょう。
- ・空き店舗、空き教室などの未利用施設を有効に活用することを考えましょう。

○地域と学校の連携を進めましょう

- ・地域の人と児童生徒の交流を深めましょう。
- ・社会人が小中学校で教えたり、地域のことを校外授業で学んだりして、地域が学校教育にかかわっていきましょう。
- ・農業・漁業を体験する学習交流を進めましょう。
- ・トライやる・ウィークで福祉施設を訪問したり、学校の空き教室で福祉活動をしたりして、学校と福祉施設を結ぶネットワークを築きましょう。

◇地域で「寺子屋クラブ」を設立し、大人と子供が一緒になって楽しめる各種イベントを実施

◇漁業に対する理解を深めるため、小中高生徒に漁業を紹介

◇小学校生徒を対象に、まちの歴史話や竹馬・竹とんぼ作りなどを実施

2 魅力ある多様な活動を進めましょう

地域には、高齢者・障害者の福祉、子育て、環境、教育など多岐にわたる課題があります。このため、こうした課題の解決に当たっては、専門的な立場から外部の情報や知識、人材を導入する多様な団体が、地縁型団体とつながりをもったり、地域を超えて、ネットワークをつくって多様な活動を展開していきましょう。

○多様な活動を多彩に展開していきましょう

- ・高齢者・障害者の福祉、子育て、環境、教育などをテーマにする団体をつくり、多彩な活動を展開していきましょう。

○地域を超えるネットワークをつくっていきましょう

- ・専門家集団や異なるテーマの団体、地縁型団体と連携し、地域を超えた、多重なネットワークをつくっていきましょう。
- ・各団体は、活動する地域を広げて、近くの団体や同じテーマを持った団体と連携して活動しましょう。



CODE 海外災害援助市民センターの活動

◇「CODE 海外災害援助市民センター」が海外における災害救援活動などを実施

◇「ひょうご市民活動協議会（HYOGON）」がNPO スタッフの研修、IT支援などを実施

○新しい文化を育てましょう

- ・団体がたくさん生まれ、団体が連携し、多彩な活動を展開することで、新しい考え方、価値を生み出し、文化に育てましょう。

◇「しみん基金・こうべ」が資金助成、人材育成などを実施

3 地域内交流・地域間交流・国際交流を広げましょう

地域内・地域間・国内外の地域と交流し、人と人が直接ふれあう多様なつながり、関係を築いていきましょう。単なる交流ではなく、この広がりや深まりが、まちづくりや地域を超えた環境問題などへの協働の取り組みへとつながることが期待できます。

○地域内でのコミュニケーションを活発化させましょう

- ・高齢者や若い世代の人、子どもまで多くの人たちが、交流を深めるイベントや活動を企画し、実践しましょう。例えば、市場の空き店舗などを利用した交流やあいさつ運動などを広めましょう。また、そうした情報を交換しましょう。
- ・世代を超えて、多くの人が出会い、交流する場をつくりましょう。それは顔を合わせて行う交流だけではなく、例えば、高齢者が瓢箪や竹とんぼをつくり、子どもがそれで遊ぶのを高齢者が見守るといった、間接的な交流も含まれます。

◇保育所の子どもたちと老人クラブ会員たちとの交流イベントを実施(西区檜野台6丁目など)

◇お年寄りが瓢箪をつくり、子どもがそれで遊ぶのをお年寄りが見守るといった間接的な交流を実施(藤原山公園ワイワイパーク)

○地域間で産業と文化の交流(農山村部と都市部との交流)を進めましょう

- ・休耕田を利用した農業体験交流や、お裾分け交流などを進めましょう。
- ・住宅団地と隣接田園部が共同でイベント・まつりを開催しましょう。地域間交流で伝承文化の継承も進めましょう。



大沢コンパクトタウン研究会の自然観察会

◇都市部と農村部の老人クラブ同士の交流会を開催(芋掘り、酒づくり見学、ジョイントコーラスなど)

◇「大沢コンパクトタウン研究会」がNPO法人北はりま田園空間博物館と交流し、まちづくりについて意見交換などを実施(H17)

○日本の文化(踊り・音楽など)を世界に伝え、コミュニケーションチャネルを広げましょう

- ・地域の餅つきや盆踊りなど、地域の祭りに地域内の留学生や外国人県民の積極的な参加を呼びかけましょう。日本の文化と世界の文化で交流しましょう。
- ・外国人観光客に日本の文化を体験できる場所や、県民がその外国の文化に親しんでいる様子を見学できる場所を観光マップなどで紹介し、外国人観光客と県民との文化交流を進めましょう。

- ◇コープこうべ組合員が「留学生国際交流」サークルを立ち上げ、フェスティバルへの参加などを実施
- ◇「国際教育文化交流協会」が留学生の支援やコーディネート活動を実施

4 多様な活動を育む基盤を強化し、活用しましょう

多様な活動を行う団体・グループ・個人が連携し、お互いが補い合う協働のまちづくりを進めるために、手助けを必要とする人の所在情報や、活動団体の活動状況など、まちなかの情報を出し合い、共有しましょう。

そして、活動団体・グループ・個人は、くらしの充実をめざして、縦割りの発想を解消し、相互のコーディネート機能を高めましょう。

また、地域づくりの活動に新たに取り組みたい、活動を充実させたい、担い手同士が連携してより高度な活動に発展させたい、そんな思いを実現するために、活動を支援していく仕組みや組織づくり、既存の中間支援組織との協働や中間支援組織のネットワーク化にも取り組みましょう。

さらに、生涯学習は地域づくり活動のきっかけとなります。文化、スポーツ、創作活動をはじめ、様々な課題解決のための学習や自己実現の場が身近にあり、そうした情報が容易に入手できるまちをめざしましょう。

○情報の受発信・編集能力を高めましょう

- ・それぞれのグループが取り組んでいる事業や、地域に住む人の特技や能力などの情報を発信・交換・共有し、活動の連携や手引きとして活用しましょう。
- ・小さな地域グループ・町内・マンションなどでの活動内容や、どのようなイベントがあるかなど、地域内情報を収集し、それを様々な方法や手段を活用し、また分かりやすい表現で発信しましょう。

- ◇阪神高齢者障害者支援ネットワークが、地域内情報のほか、県・市の情報なども把握して、関係者に提供

○活動支援の仕組みを充実させましょう

- ・多様な活動の担い手の間の連携、情報交換を図るため、情報の伝達・仲介役となるような「コミュニケーター」をつくりましょう。
- ・活動の立ち上げ・運営の指導や需給調整を行う、指導者・コーディネーターなどの人材の養成講座を実施し、育成しましょう。
- ・多様な活動団体の専門家集団は、中間支援組織の立ち上げや活動を支援し、既存の中間支援組織と団体の連携を密にしましょう。
- ・中間支援組織同士の情報の交換、交流の場や仕組みをつくり、中間支援組織のネットワークをつくりましょう。

◇「市民活動センター神戸」「コミュニティサポートセンター神戸」などの中間支援 NPO が、相談・情報提供、調査研究などを実施

○学びの気持ちを高め、それを支える仕組みをつくりましょう

- ・地域の歴史や震災体験、文化を学ぶ機会をつくりましょう。また、そうした情報を共有する仕組みをつくりましょう。
- ・受け身ではなく、身近な社会問題を解決する能動的な学習プログラムや、他地域や多世代と交流するプログラムを充実しましょう。
- ・高齢者が、地域の伝承文化・歴史、戦争体験、昔の遊びなどを若い世代に伝え、若者が、高齢者に I T 学習やニュースポーツなどを紹介するプログラムを実施しましょう。
- ・学ぶ機会、教える機会を通じて、地域の未来を考えるとともに、世代間交流、地域間交流を進めましょう。また、学習の成果を地域づくりに活かしましょう。



ツール・ド・コミュニケーションのサロンの様子

◇地域社会及び高齢者の現状を学ぶ「高校生、大学生、大学院生と高齢者との交流」を実施（西区、長田区）

◇ツール・ド・コミュニケーションなどが I T 講習を実施